

平成 2 5 年 度

事 業 計 画 書

公益財団法人 北海道農業公社

－ 主 な 項 目 －

第 1 基本方針

第 2 事業計画

I 農業構造施策部門

1 農業担い手育成確保事業

2 農地流動化事業

II 農業農村整備部門

1 農村施設整備事業

2 農用地開発整備事業

III 畜産振興部門

1 酪農・畜産経営の支援

2 家畜改良増殖機能の強化

IV 企画・管理部門

1 業務改善の促進

2 体質強化の促進

第 1 基本方針

我が国は、東日本大震災からの復興が急がれる中、原子力安全対策や電力の安定供給の確保などの他、近隣諸国との外交問題、世界経済の減速に伴う景気後退など多くの課題を抱えています。

また、経済のグローバル化が進む今日、国際的な経済連携の動きが高まっていますが、TPP 交渉については、農業や食品に対する影響はもちろんのこと、地域経済にも影響が及ぶものであることから、引き続き関係機関・団体と連携して、国に慎重な対応を求めてまいります。

農政については、近年、縮減が続いてきた土地改良等の公共事業関連予算の行方や、農地流動化対策・新規就農対策など公社と関連のある施策が今後どのような方向に向かうのか情報収集に努め、速やかに公社としての進路を見極めて対応していく必要があります。

本道の農業・農村は、我が国の食料自給率の低下が続く中で、広大な農地や恵まれた自然環境の下、我が国最大の食料供給地域として、安全・安心な農畜産物を安定供給することが期待されていますが、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化が止まらないため、担い手の確保や生産性の向上が重要な課題となっております。

こうした中、当社は、「人」と「農地」に関わる業務を行っていることから、新規就農者の確保対策の他、農地流動化対策や基盤整備事業による土地生産性の向上、飼料基盤の整備など、その役割はますます重要性を増しています。

平成 25 年度の公社事業については、本道農業・農村が果たすべき役割をより一層発揮できるよう、地域農業が抱えている課題について地元関係者と認識を共有し、より効率的な実施に全力で取り組んでまいります。

担い手育成確保事業については、新規就農支援施策等を活用した就農支援対策に積極的に取り組むとともに、本道農業・農村の担い手の効果的な育成・確保対策について、道をはじめ関係機関・団体と連携し推進してまいります。

農地流動化事業については、地元市町村・JA や農地利用集積円滑化団体等との連携を密にしながら、地域農業の中心となる経営体への利用集積を促進します。

農村施設整備事業については、粗飼料の生産性向上と効率化に資する TMR センター等の施設整備を中心に行い、酪農・畜産経営の体質強化に努めます。

農用地開発整備事業については、これまで蓄積してきた草地整備の技術と経験を基に、新たな工法として工程短縮による基盤整備を積極的に推進します。

畜産振興事業については、本道畜産の将来を見据えた優良牛の導入を促進するため、乳肉用牛貸付事業を実施するとともに、受精卵移植技術を活用した育成事業の強化を図ります。

当社は、昨年より「公益財団法人北海道農業公社」としてスタートいたしましたが、これまで以上に事業運営の適正化に努め、公益法人としての役割を積極的に果たしていく必要があります。

平成 25 年度においては、政権交代に伴い政策の大きな転換が予想されますが、当社が将来とも農家や地域の負託に応え得る組織として持続できるよう、引き続き全社的な収支均衡への取組を強め、健全な経営の確立に向け努力してまいります。

第2 事業計画

事業計画総括表

(単位:千円、%)

事業名	本年度計画	前年度計画	前年度対比
	金額	金額	
農業担い手育成確保事業	918,000	737,000	124.6
農地流動化事業	18,669,000	17,713,000	105.4
農村施設整備事業	4,295,000	3,594,000	119.5
農用地開発整備事業	3,605,000	3,626,000	99.4
畜産振興事業	1,191,000	1,200,000	99.3
計	28,678,000	26,870,000	106.7

I 農業構造施策部門

1 農業担い手育成確保事業

(1) 就農促進支援活動事業の推進

これからの農業を担う多様な人材の育成・確保を図るため、新規学卒者及びUターンを含む農業後継者や農外からの新規就農希望者(新規参入者)などを対象に、国や道の各種就農支援策を活用した活動を推進します。

(2) 青年就農給付金事業の推進

青年の就農意欲を喚起するため、就農前の研修期間の所得を確保するための給付金(準備型)の給付事業に取り組めます。

(3) 就農支援資金の貸付及び管理

新規参入者や農業後継者の円滑な就農促進に向けて、就農支援資金制度の周知を図り、就農計画に対応した資金の的確な活用を促進するとともに、適正な資金管理に努めます。

(4) 海外研修・国際交流の促進

本道農業の将来を担う人材育成に資するため、農業後継者等を海外に派遣し、先進的な技術の習得や国際感覚等の向上を図るほか、国の関係機関が行う途上国の指導者を養成する農業技術研修員受入事業を支援します。

(5) 就農啓発活動の推進

優れた新規参入者や農業後継者に対する表彰事業を実施するとともに、農業の担い手育成や本道農業・農村の理解を醸成する活動を行う団体の支援などに努めます。

農業担い手育成確保事業計画

(単位：千円、%、回)

区 分	本年度計画	前年度計画	前年度対比
就農促進支援活動事業	113,000	133,000	85.0
うち農業青年海外派遣等事業	10,000	12,000	83.3
青年就農給付金事業	510,000	318,000	160.4
就農支援資金貸付事業	283,000	274,000	103.3
就農啓発基金事業	7,000	6,000	116.7
公益事業計	913,000	731,000	124.9
農業技術研修員受入事業(受託)	5,000	6,000	83.3
収益事業計	5,000	6,000	83.3
合 計	918,000	737,000	124.6

(参考)

就農相談会・農業体験セミナー	33回	32回	103.1	
青年就農給付金給付額(準備型)	495,000	310,000	159.7	
就農支援資金	融資枠	260,000	280,000	92.9
	貸付金残高	4,407百万円 (H25.3末見込)	4,683百万円 (H24.3末)	94.1

2 農地流動化事業

(1) 農地流動化の促進

農地保有合理化法人の有する「中間保有・再配分機能」を発揮して、離農・規模縮小農家等から農地を買い入れ、意欲ある多様な経営体に売り渡しを行い、規模拡大及び面的集積を図るための事業を実施します。

事業実施にあたっては、経営体及び地域のニーズの把握に努め、農地売買等事業、農業生産法人出資育成事業を実施するほか、引き続き新規就農者（新規参入者）を支援する公社営農場リース事業に取り組めます。

(2) 市町村・農地利用集積円滑化団体との連携等

地域農業の中心となる経営体への農地利用の集積を促進するため、市町村が策定・見直しを行う「人・農地プラン」への情報の提供・助言、及び農地利用集積円滑化団体との諸会議を通じた情報の交換・研鑽に努めてまいります。

農地流動化事業計画

(単位：ha、件、地区、千円、%)

区 分		本年度計画		前年度計画		前年度対比	
農地売買事業		面積	金額	面積	金額	面積	金額
買入	担い手支援	6,000	9,500,000	6,000	9,500,000	100.0	100.0
	小計	6,000	9,500,000	6,000	9,500,000	100.0	100.0
売渡	総合支援	50	26,000	-	-	皆増	皆増
	長期育成	1,476	3,269,000	1,491	3,332,000	99.0	98.1
	担い手支援	4,071	5,563,000	3,830	4,551,000	106.3	122.2
	小計	5,597	8,858,000	5,321	7,883,000	105.2	112.4
賃貸借		-	-	-	-	-	-
計		11,597	18,358,000	11,321	17,383,000	102.4	105.6
農業生産法人出資育成事業		面積	金額	面積	金額	面積	金額
農用地等の買入・現物出資		20	30,000	20	30,000	100.0	100.0
農地継承円滑化事業		件	金額	件	金額	件	金額
継承円滑型		-	-	-	-	-	-
公社営農場リース事業		地区	金額	地区	金額	地区	金額
酪農型		7	281,000	6	300,000	116.7	93.7
合計		-	18,669,000	-	17,713,000	-	105.4

II 農業農村整備部門

1 農村施設整備事業

(1) 生産基盤拡充の推進

TPP 交渉への参加問題や配合飼料の高騰など本道酪農を取り巻く生産環境が厳しさを増している状況の中、自給飼料基盤に立脚した酪農畜産経営の体質強化を図ることを基本として事業を推進します。

また、限られた畜産公共事業予算を有効に活かすため、粗飼料生産基盤の整備はもとより、粗飼料の生産性向上や効率化に資する TMR センター中心の施設整備を併せて推進します。

(2) 新規地区の取組等

新規計画策定地区については、地元要望を確認したうえで早期に策定し、実施できるよう取組みます。また、実施に当たっては、刻々と変化する農業情勢を踏まえ、柔軟に対応できるように関係機関との調整に努めます。

農村施設整備事業計画

(単位：地区、千円、%)

区 分		本年度計画		前年度計画		前年度対比	
		地区	金額	地区	金額	地区	金額
畜産担い手育成 総合整備事業	継続	12	2,859,000	22	2,145,000	54.5	133.3
	新規	10	1,355,000	6	1,379,000	166.7	98.3
	計	22	4,214,000	28	3,524,000	78.6	119.6
畜産環境整備事業	継続	1	81,000	2	70,000	50.0	115.7
	新規	-	-	-	-	-	-
	計	1	81,000	2	70,000	50.0	115.7
合 計	継続	13	2,940,000	24	2,215,000	54.2	132.7
	新規	10	1,355,000	6	1,379,000	166.7	98.3
	計	23	4,295,000	30	3,594,000	76.7	119.5

2 農用地開発整備事業

(1) 土地基盤の整備促進

自給飼料生産基盤等の実施にあたっては、これまで蓄積してきた草地整備の技術と経験を基に、新たな工法として工程短縮による基盤整備を積極的に推進します。また、独自に開発した作業機械を活用し畑作地等を含めた農地の基盤整備について関係機関・団体と連携しながら積極的に普及・啓発に努めます。

<重点的な取組>

- ・ 工程短縮複合機械を活用した草地整備改良工事の実施
- ・ 農作物の生産性向上に向け、交付金事業を活用した公社独自の「排水及び石礫対策工法」による土づくり支援の実施
- ・ 既存草地の植生改善を図るため、草地更新支援工事（公社 New リフレッシュ）と草地生産性向上対策事業による一体的な実施
- ・ 公社有機械の効率的な稼働体制の実施

(2) 調査研究

草地整備改良工事の工程短縮複合機械による施肥量削減に向けた実証調査を継続実施します。

農用地開発整備事業計画

(単位:ha、千円、%)

区 分		本年度計画		前年度計画		前年度対比	
		面積	金額	面積	金額	面積	金額
直 営 事 業	畜産担い手育成 総合整備事業	3,530.0	1,728,000	3,890.0	1,844,000	90.7	93.7
	畜産環境整備事業	10.0	8,000	50.0	22,000	20.0	36.4
	調 査	-	119,000	-	104,000	-	114.4
	小 計	3,540.0	1,855,000	3,940.0	1,970,000	89.8	94.2
受 託 事 業	草地・耕地等整備	1,350.0	899,000	1,640.0	900,000	82.3	99.9
	土層・非補助	4,680.0	353,000	4,150.0	390,000	112.8	90.5
	草地更新支援工事 (公社 New リフレッシュ)等	560.0	75,000	480.0	58,000	116.7	129.3
	交付金事業 (草地生産性向上対策事業)	1,120.0	322,000	780.0	258,000	143.6	124.8
	調 査	-	101,000	-	50,000	-	202.0
	小 計	7,710.0	1,750,000	7,050.0	1,656,000	109.4	105.7
合 計		11,250.0	3,605,000	10,990.0	3,626,000	102.4	99.4

Ⅲ 畜産振興部門

1 酪農・畜産経営の支援

(1) 乳用牛貸付事業

乳用牛貸付事業については、本道酪農の振興を図るため関係団体と連携して実施する一般貸付のほか、公社営農場リース事業を活用した新規就農者に対する貸付けを行います。

(2) 肉用牛貸付事業

肉用牛貸付事業については、肉用牛繁殖基盤の更なる強化が求められていることから、関係団体と連携しながら公社独自の貸付制度を活用し優良牛の導入を行います。

また、畜産試験場が生産した受精卵産子をも本貸付事業により、和牛新興地域へ供給し、産地化を支援します。

2 家畜改良増殖機能の強化

(1) 受精卵移植技術の活用

受精卵移植技術については、十勝育成牧場の豊富な乳用牛資源を活用し、生産者が希望する高能力乳肉用牛の後継牛確保を支援します。

特に、肉用牛は、北海道和牛の産地形成のために道産種雄牛の積極的な活用が必要であり、関係団体と連携し受精卵による候補種雄牛の生産を行います。

(2) 新規就農者の支援

公社が実施する農場リース事業の初妊牛導入に優先して供給します。

(3) 和牛新興地域への支援

和牛新興地域における繁殖牛の不妊リスク軽減のため、十勝育成牧場で授精を行い妊娠牛として供給する取組を行います。これらは、肉用牛貸付事業との連携により一定期間の貸付けを行います。

畜産振興事業計画

(単位:頭、千円、%)

区 分			本年度計画		前年度計画		前年度対比		
			頭数	金額	頭数	金額	頭数	金額	
乳肉用牛貸付事業	乳用牛	一 般	486	219,000	529	209,000	91.9	104.8	
		農 場 リ ー ス	314	141,000	271	151,000	115.9	93.4	
		小 計	800	360,000	800	360,000	100.0	100.0	
	肉用牛	公 社 優 良	400	180,000	400	180,000	100.0	100.0	
		小 計	400	180,000	400	180,000	100.0	100.0	
	計		1,200	540,000	1,200	540,000	100.0	100.0	
乳肉用牛育成事業	乳用牛	購 入	760	213,000	760	213,000	100.0	100.0	
		販 売	740	387,000	730	383,000	101.4	101.0	
		小 計	1,500	600,000	1,490	596,000	100.7	100.7	
	肉用牛	購 入	26	8,000	52	16,000	50.0	50.0	
		販 売	72	43,000	84	48,000	85.7	89.6	
		小 計	98	51,000	136	64,000	72.1	79.7	
	計		1,598	651,000	1,626	660,000	98.3	98.6	
	合 計			2,798	1,191,000	2,826	1,200,000	99.0	99.3

IV 企画・管理部門

1 業務改善の促進

(1) 新公益法人としての業務運営

当社は、平成 24 年度から公益財団法人としてスタートし、「北海道農業公社」として名称も変更いたしました。これまで以上に社会的に信頼され責任ある法人として、コンプライアンス体制の強化のために制定した「倫理規程」の遵守に努めるとともに、法令で定められている公益認定要件への適合状況を考慮した業務運営に努めます。

(2) 職場環境向上への取組

ア 「安全」の徹底

公社が実施する事業における労働災害の防止、交通事故・違反の防止について、統括労働安全衛生委員会を中心とした全社的な取組を強め、その徹底を図ります。

イ 職員意識の高揚

公社を取り巻く状況の変化を注視しながら、職員と農家や地域の関係機関・団体との意見交換など、幅広いコミュニケーションに努め、各地域の農業の振興方向等について地元関係者と認識を共有するとともに、受益農家の要望を直接聞き取るなど、きめ細かな対応に努め、実効ある取組ができる職場環境づくりに努めます。

(3) 入札制度の適正な運用

入札制度の運用にあたっては、社会的な情勢変化に的確に対応するため、「入札監視委員会」の審議意見や入札結果を検証して透明性・公正性などの確保に努めます。

また、適正な施工の確保を図るため、「低入札価格調査制度」の検証等を行い、公社事業に係る入札制度の改善に取り組めます。

2 体質強化の促進

(1) 組織運営の取組

本年は、「第4次中期運営指針」の最終年であることから、現行の運営指針の総括を踏まえて、最近の農業を取り巻く状況の大きな変化等に対応すべく、各種事業の展開方向や取組方策等を内容とする「第5次中期運営指針」を策定してまいります。

(2) 新たな事業への取組

最近の購入飼料価格の高騰が続く中、自給飼料の確保が喫緊の課題となっています。また、道内の草地の植生悪化による生産性の大きな低下が地域の問題となっております。このため、関係機関・団体と連携しながら、公社の持つ機械力や技術力を効果的に発揮し、国の事業制度等を活用した事業を推進するとともに、ニーズに即した事業受託による事業量の確保に努め、体質強化に向けた取組を積極的に推進します。

(3) 組織体制の見直し

公社運営の効率化を図り、最大限の効果を発揮できる組織体制を目指し、本支所の機能の見直しや業務の集約化などの検証を行い、次期運営指針に反映いたします。

更に、事業目論見を勘案し、適正かつ効率的な職員体制を整備するため、今後の職員の採用計画や職能資格制度、賃金体系などの検討を行います。

(4) 職員の教育研修

公社業務の遂行に必要な資格取得を推奨するとともに、後継者を育成し技術の継承が図られるよう努めます。

(5) 収支均衡への取組

平成23年度から取組んできた収支改善計画に基づき、管理経費等の削減に努めてまいりました。本年度においても、引き続き事業費や事務費に係る経費の一層の節減や業務改善による収支の均衡化に努めます。